

平成 25 年度第 1 回新潟県公立大学法人評価委員会  
～議事概要～

- 1 日 時 平成 25 年 7 月 22 日(月) 18 時～20 時
- 2 場 所 都道府県会館 407 会議室
- 3 出席者  
(委 員) 浦田部会長、尾畑委員、古城委員、坂井委員、城山委員  
(県立大学) 猪口理事長、佐々木副理事長 ほか 7 名  
(設立団体) 橋本総務管理副部長、村山大学・私学振興課長ほか 2 名  
(事 務 局) 佐久間知事政策局長、水野政策評価室長ほか 3 名

4 次第

- (1) 開会
- (2) 議事
  - ア 県立大学部会長の選任について
  - イ 県立大学部会長代行者の指名について
  - ウ 平成 24 年度業務実績報告について
  - エ 平成 24 年度業務実績に関する評価について
- (3) 閉会

5 議事概要

- (1) 県立大学部会長の選任について  
－委員互選により、浦田委員長が部会長に就任－
- (2) 県立大学部会長代行者の指名について  
－浦田部会長の指名により、坂井委員が部会長代行者に就任－
- (3) 平成 24 年度業務実績報告について ～県立大学から説明後の質疑～

【委員】

指標評価 No. 1 について、評価しないということになっていますが、ある程度方向性を出しておいて目標を定めたわけですね。定めたけど結局受験者数が少なかったから評価しないというのはなんとなく不思議ですね。やはり評価すべきだと思うのですが。

【大学】

本学の英語教育は、1, 2 年生を中心に集中的に行うという形ですすすめています。最初はアカデミックな英語を中心に教えていくということで、TOEFL を 1 年生から

2年生にかけて、全員に受けさせるという形で進めていきましたが、2年次の後半あたりから学生の自主性にまかせ、TOEFLあるいはTOEICを自主的に受験させて結果を出していくということでやってまいりました。実際、国際地域学部に関しましては、全員ではないのですが、かなりの学生がそういう方向性で英語の勉強を続けていきました。しかし、人間生活学部の場合には、なかなかモチベーションを維持するのが難しく、そのため今年度から、英語の授業の成績の一部に資格試験のデータを組み込むというやり方を始めました。それ以前はそういうことはなく、自主的に、ということで進めておりましたが、もう少し動機付けを高める必要があるということで、これからはこういうやり方でやっていきます。

評価せずという形で書きましたけども、私どもでもし評価をするとすれば、実際にはもう少し伸びているはずですが、受験する人が少なかったという理由で、cになるかと思います。

#### 【委員】

今回は評価するかしないか、議論しなければならないんですけど、そもそもこういう項目を立てたことが適切ではなかったかもしれないという話かなど。人間生活学部では、英語の教育を自主性に任せてやっていくという方針ですよね。そもそも卒業時の英語能力を評価の対象としたこと自体が適切だったのかということになるのかと。もちろん、今後、中期目標の設定とか評価方法の検討をしなければならないわけで、その時に評価方法について議論するのだと思います。ただ、今回は、与えられた情報のもとで評価をするというのが我々に与えられた任務でしょうから、そこは後で議論することになると思います。坂井委員、現時点ではいいでしょうか。

#### 【委員】

はい。cならcで。

#### 【委員】

後で具体的なことについては議論します。

#### 【委員】

指標評価No. 2についてなんですけど、「最上位のランクsとすることができるため、s評価とした」とありますが、評価基準非適用指標の評価方法を見ると、程度に応じてs評価にすることができると書いてあります。ここでは、どういう風に判断したのでしょうか。どの程度だったらsで、どの程度だったらaなのでしょう。

#### 【大学】

人間生活学部子ども学科では、幼稚園教諭と、保育士と、社会福祉士の3つの資

格が取得可能なのですが、社会福祉士の場合は、国家試験の受験資格という形になります。そういったことから、人間生活学部子ども学科では、定員は40名ですが、学生の希望によってどの資格を取るかというのを優先しながら、サポートしています。今年度第一期生は、40名のうち20名が受験しました。その結果、11名は合格で、社会福祉士の国家試験を受けた大学（※受験者が10名以上の学校）の中では、218校中、13番目という成績でしたので、それはかなり高い成績ではないかなと思ひまして、s評価ということも可能ではないかなと判断しました。

**【委員】**

すみません、私、指標評価 No. 9 と間違えて質問してしまいました。申し訳ありません。

指標評価 No. 9 で、s 評価としたところについてですが、評価基準非適用指標の取扱いを見ると、程度に応じて上位ランクにすることができると書いてあります。ここでは、どういう風に判断されたのでしょうか。

**【委員】**

指標評価 No. 2 はよろしいのですか。

**【委員】**

すみません、指標評価 No. 9 の話です。

**【委員】**

指標評価 No. 9 は、就職希望者の就職率ですし、指標評価 No. 2 は国家資格の取得率です。指標評価 No. 2 の国家資格の取得率については、質問はないということによろしいですか。

**【委員】**

指標評価 No. 9 についての質問です。

**【大学】**

全国平均を見ますと 93.9% ですので、それに比べるとよく頑張ってくれたなということで s 評価にしました。いろいろな諸事情を考えても高い数字ではないかという判断をさせていただきました。

**【委員】**

達成標準値 93.9% と実績値 97% とを比較すると、120% に到達しているか、あるいは 110% を超えているかと考えると、そこまでは達していませんが。

**【委員】**

平成 24 年の目標値と、達成標準値と、実績値というのがありますが、実績値が 100%であれば問題ないのかもしれませんが、97%だとどうなるかと。

**【委員】**

はい、1 つ、それは私の意見です。

**【委員】**

新しく参加していただいた先生方には、分かりにくい部分もあるかと思いますが、評価基準非適用指標の評価基準というのがありまして、今日の配付資料、参考資料 3 です。それに則って、議論しています。参考資料 3 は 2 枚ありまして、1 つは縦、1 つは横です。

他、いかがでしょうか。

**【委員】**

確認なのですが、その評価基準非適用指標の評価基準でこういう風に評価しますよ、と決まっていますが、これはどこかの段階でオーソライズされているという理解でよろしいのですよね。最初の段階でこれでやるっていうのは決まっていて、後はこれに沿って見ていきましょうと。評価基準の中身に対してどうかという議論はここではしないで、どこか、次期中期計画か何かを議論するときにその話が出てくるかもしれないという整理でよいのですね。

**【委員】**

その通りです。

**【委員】**

今、どの程度上がっているのか、あるいはどの程度評価するのか、そのところは議論する余地があるということで、質問がありました。

**【委員】**

先ほどの人間生活学部の話、話を元に戻して申し訳ありませんが、指標評価 No. 1、先ほどの議論を続けると、評価の対象となった学生が一人しかいないというお話ですよね。それであれば評価できないだろうということで、大学側は評価なしと判断をされて、それに対して、そうでないのではないかという意見が出ていると、そういう話です。

今のことに関して言えば、参考資料 3 別紙の、上から 2 番目に卒業時の英語能力という項目がありまして、人間生活学部の目標値、それが 470 です。実際に計測し

てみるとそこまでいっていなかったと。一人しかその試験を受けていないので、それは評価できないという、大学側の説明でした。それに対して、いや、評価すべきだろうという意見が委員からでました。これに関し、評価方法等については、参考資料3を見ていただいて、それを使って評価すると。

他はいかがでしょうか。順番としましては、ご質問いただいて、大学の方々から回答をいただいていると。それを参考にして後で我々が評価すると、こういう順番です。

ご質問がなければ、平成24年度業務実績に関する評価に移ります。

#### (4)平成24年度業務実績に関する評価について

##### 【委員】

それでは、議題4の「平成24年度業務実績に関する評価について」に移ります。ここでは、全部で小項目が100あります。各委員から事前評価をしていただきました結果、大学側の自己評価結果と、各委員の評価案が異なる項目、並びに、評価案に異論はないが、質問や意見等の指摘のあった項目について、順番に一つずつ検討・確認し、評価委員会の意見を固めていきます。

資料3、これを使いまして、評価を固めていくと。まず、先ほども申しましたが、事業評価につきましては、委員の皆様方と、大学の自己評価の間に違いはなかったということです。ですので、事業評価については大学側の自己評価と同じであるということよろしいでしょうか。

～委員了承～

##### 【委員】

続きまして、指標評価についてです。指標評価には、大学の自己評価と我々の評価とが、異なるものと異なるものがあります。異なるものとしては、先ほどもありましたように、指標評価 No. 1, 2, 9, 10, 11, 12, 30です。ここを重点的に議論しなければなりません、それ以外の項目については、さきほどの事業評価と同じように、意見が違わないので、大学の自己評価をそのまま我々の評価とすることよろしいでしょうか。

～委員了承～

<指標評価 年度計画の項目番号(以下同様) 1「卒業時の英語能力(人間生活学部 TOEFL スコア)」について>

##### 【委員】

まず、指標評価 No. 1、卒業時の英語能力であります。既に先ほど意見がありましたので、なぜこのような評価の違いが生じたのかおわかりになると思います。大学側は評価の対象としないという判断をしたわけであり、その理由として評価の対象となる学生が一人しかいないということです。そもそも人間生活学部では、

英語能力を上げることに關しては、それほど厳しい基準を設けていないと。それに対して、目標を掲げたのだから、評価をすべきだという意見が委員から出ました。

卒業生を輩出したのが、今回初めてなので、こういう例は今までなく、今回初めて発生したものです。大学側としては、評価をするとすれば、c であるとしています。

私とすれば、評価すべきだとは思いますが。ただ、dは厳しいような気がします。

**【委員】**

評価指標自身は、ここで決めたんですよね。先ほどの話だと、人間生活学部は必ずしもそういう方向性で教育をしていなかったと。良いか悪いかは別として、こちらの評価基準とは違うことをやっていたということですよ。

**【委員】**

大学は、評価委員会で決定した評価基準を受け入れたわけです。

**【委員】**

だとすると、ある程度厳しめにならざるを得ないのでは。いずれは、評価項目をどうするかというのは然るべき時に議論すべき話ですが、さきほどの参考資料3で目標達成者の割合を基本に考えるというのがあるので、本来であればデータを取れなかったというのは、問題なのでは。

**【委員】**

それが問題だと思います。

**【委員】**

先ほどの説明ですと、こういった試験を受ける学生というのは、そもそも希望しなかったということですよ。受験していないのでデータがないと。やはり受けるようにある程度促していかないといけないと思います。多少スコアが悪くとしても、この指標がある限りは。

**【委員】**

人間生活学部の学生は、もちろん英語が出来た方が良いでしょうけど、それほど重要だという風に思っていない。今回は与えられた評価基準で評価しなければならぬのでしようけれども、次回は、この項目をどうするかを検討することになるのだと思います。

お話を伺っていると、評価はすると。ただその時にcかdどちらにするかと。厳しめにつけるとdとなります。

「年度計画を大幅に下回る」というのがd評価です。「年度計画を十分に実施せ

ず」が c。そもそも評価する数字がないというのが問題なのであって、そうであれば、大幅に下回るといった評価もできない。

**【事務局】**

今の項目に関しては、評価基準非適用指標なので、参考資料3の別紙で、「入学時からの伸び率を評価」というところに該当になります。

**【委員】**

大学側は評価なし、ただ、基準を作った以上評価すべきというのは委員の皆さんの意見です。

**【委員】**

先ほどのご説明があった c にするっていうのは、評価対象が一人はいましたと、400 が 413 にあがっていて、2年生（受験時の2年生以降から）もうちょっといいそうなので、ここでいう一定の伸び率はあるでしょうということで c だということなんでしょうが、考え方の2つめで、併せて目標達成者の割合等を勘案することになっているので、目標を達成しているかどうかにあたり、一人しかいないという。ここの判断で、c とするには厳しいような気がします。今の考え方をとる限りは。その人はそれなりに達成しているので c でいいと思いますが。他の人については何とも言えないわけですね。

**【委員】**

そうすると評価なしということですか。それとも・・・。

**【委員】**

これは意見を付することはできるんですか。例えば d なんだけど、そもそもこの目標はどこかで再検討する必要がある、みたいなことを書くということがあり得るのですか。

**【委員】**

個別の項目について、我々は、こういう風に考えているというようなことを書けますか。

**【事務局】**

右側の方にそういうコメントを書くことは可能ですし、これまでも必要なものはコメントしていただいております。

**【委員】**

そういうコメントを、まずは13点改善しているというところ、大学側はcとしていますが、dでもいいかもしれないと。

**【委員】**

達成目標は420点ですから、13点だけだとbと言えるか微妙です。その後も伸びているかもしれないという話でしたので。ただし、cだという議論については、400点から413点まで到達していますが、420点までは行っていないので、cくらいではないでしょうかと。

**【委員】**

それはそれで受け入れて、目標達成者の割合や、習熟度別の状況を勘案するということについてはどうかと。ただ、この部分を改善してくれと言っても、また話がもとに戻りますけども、人間生活学部の学生に対しては、英語の能力を上げるということについて、厳しい基準を設けてない。ですから、目標、評価の基準について再検討する、そういうコメントを付けると。この評価基準は、適正ではないと思われるということで。評価基準を再検討すべきだと考えるというようなコメントを付けますか。そして、評価はcとなる。

**【委員】**

大学としては、もう学部は英語をやらなくても他にいろいろな国家試験もあるので、そちらの方を一生懸命にやってもらいたいと考えているのか、一方、いろいろ踏み込んで英語を学習するモチベーションを上げるという取組について、大学から説明がありましたけども、依然として、やはりこの学校は英語は大事なので、伸ばすのが必要だと考えているのか。

**【委員】**

県立大学の三つの基本理念というところで、国際性の涵養、地域性の重視、人間性の涵養と書いてあるわけですよ。国際性っていうのが入っているわけですよ。これは基本理念ですから、学部に関係ない。だからそういう意味では、人間生活学部であったとしても、国際地域学部と違ったとしても、そういう知識も持ってもらいたいということが、ひとつあるのではないのでしょうか。ただ、国際地域学部みたいに完璧には行かないだろうという頭があるのだと思います。

**【委員】**

そうであれば、目標達成に向けて、努力をするということは、メッセージとして大学側に伝える必要があると思いますし、そもそもこの評価基準に合うような、目標達成者の割合や習熟度の状況を勘案という、それさえもできていないのですから、

そういう情報を取って、評価するよというこをこちらからコメントとして付け加えると。

**【委員】**

そうすると、先ほどの内容とはむしろ逆ですよ。再検討するよというよりは、むしろ評価を出せるよに、受験を促すなりなんなりしてほしいというメッセージを出すと。

**【委員】**

受験生の増加と得点の伸長を図る方策を進めているという風に、先ほど説明があったわけですから。努力する姿勢があるわけなので。

**【委員】**

大学側からの説明にあったよな形で、目標を達成するよ努力してほしいと、それについては、評価の段階でも、数字を取れるよに、要は受験を促すよことですよ。英語のテストの受験を。そして、目標を達成するよに努力してほしいよことをコメントすると。

**【委員】**

cでもちょっと甘いのかなと。

**【委員】**

ただ、dだと一番低い評価になってしまうので、cが良いと思います。評定はcでよろしいでしょうか。

～委員了承～

それでは、cということで我々の評価を固めたいと思います。コメントとして、大学側からの説明にあったよに、目標実現に向けて、努力してほしいと。具体的には、現状では評価できる状況になっていないので、きちんと評価できるよな状況を作り、目標の達成に向けて努力して欲しい、よことよろしいですか。

～委員了承～

<項目番号2「国家資格の取得率（社会福祉士合格率）」について>

**【委員】**

次、指標評価 No. 2ですけども、これは、国家資格の取得率、社会福祉士の合格率ですが、大学側からはs評価と。しかし、委員からはsではなく、aあるいはc評価が妥当ではないかという意見があります。これも参考資料3の評価基準非適用指標の評価方法で評価することになりますが、大学側からのs評価とした説明は、

実績値の 55%に対し、目標値は 70%、達成標準値である全国合格率の平均（※受験者が 10 名以上の学校）は 31.4%であり、それと比較すると、55%というのは標準値の全国平均よりもかなり高いので、それで s としたということです。それに対して委員からの意見では、目標まで到達していないので s ではないのではないかと。いかがでしょうか。

**【委員】**

c 評価というのは、通常の評価基準に基づいて出したらそうなったのです。しかし、これは評価基準非適用の指標でした。評価基準非適用の評価基準でやると、s 評価という感じになりますね。なので、c という評価はないと思います。

**【委員】**

受験者数が少ないということをどう考えるかということですが、11 と言えばそれまで、40 人中、20 人、半分が受験したということをどう考えるか。少ないと考えれば s ではないが、これが少ないかどうかは何とも言いがたい。

**【委員】**

なりたいという人がこの人数しかいなかったということですよ。私が少ないのではないかと意見を書いたのですが、これの基準を達成した人だけという縛りをしていないというのは問題かなと思ったのですが、いろんな資格がある中で、これを希望した人がこれだけしかいなかったとなるので、それだったら希望した人の中から、これだけ受かっているのならそれでもいいのかなという気がします。

**【委員】**

そういう意味では、いくつもあるなかで半分の人を受けていて、その中で半分の人合格しているのです、むしろ悪くないと。

**【委員】**

それでは s でよろしいでしょうか。  
～委員了承～

<項目番号 9 「就職希望者の就職率」について>

**【委員】**

参考資料 3 ですと、s が 100%、b が 95%、全国平均が 93.9%。非適用指標の評価基準の取り扱いで、s が 100%、b が 95%と書いてあることが紛らわしい。あくまでも直近の全国就職率平均を標準値とするのであれば、s でもいいかと。

**【委員】**

標準値を上回った場合はsとすることができるというところで、aがないのかと。つまり、上回ればみんなsなのかというね。どの程度上回った場合にどうなのか、というところがはっきりしません。

**【委員】**

93.9%が全国平均ですので、97%はsに近いという判断を大学側はされたと。これは、sで、大学の自己評価と同じということで。  
～委員了承～

<項目番号10「新卒者の県内就職率」について>

**【委員】**

新卒者の県内就職率、これ、悩ましいんですよね。どんな数字が良いのか、定義しにくい。目標値は60%、それからかけ離れているので、aでもsでもなくてbと。どの程度乖離があるとbなのか、あるいはcなのか。こういう指標も、評価の考え方や基準を議論するときに決めなければならないとは思いますが、今回は与えられた評価基準でやるしかないのですが。いかがでしょうか。

**【委員】**

45%または75%がbの目安で、今年度の標準値は、47.6%。

**【委員】**

どっち側にも乖離してはだめということですよ。最適値というのは、一応60%にしよう。あまり県内だけでもまずいし、みんな県外に行ってもまずいという。60%を基準に78%はどうかと見ると、ちょっと県内が多すぎるのかなと、こういうことですね。よろしいですかbで。

**【委員】**

でも、もともと県立大学の趣旨っていうのは……。すみません。県立看護大学と勘違いしました。

**【委員】**

60%という数字自体、あまりこの数字がベストとは判断しにくいですが、60%と決めた以上、これで行くしかないですし、そこからそんなに離れていないので、bで良いと思いますが、それでよいですか。これも大学の自己評価と同じということで。  
～委員了承～

<項目番号 11「卒業生の就職・進学満足度」について>

【委員】

実際、86%というのが実績値で、目標値が75%。かなり高いので、aなのか、あるいはsもあり得るのではないかと。大学側は、a。委員の中にはsでも良いのではという意見もありますが。

【委員】

アンケートへの回答者数が少ないので、aの方が妥当ではないか。

【委員】

aでよろしいでしょうか。

～委員了承～

<項目番号 12「留学生受入・派遣数（受入数）」について>

【委員】

受入数が0となっていますが、dがふさわしいのではないかという意見の委員もいます。大学側の説明は、東日本大震災の影響で協力校からの留学生受入についての制度構築作業が止まってしまったと。それをどう判断するかですね。東日本大震災の影響で、今まで協定を結んでいた協力校から受け入れることを想定していたのだが、機能しなかったと。いかがでしょうか。

あえてdにする必要もないだろうと。状況が状況だけに。

【委員】

状況ということと、去年もまさに0なんですよね。23年度実績も。その時も、十分にそれを実施しなかったということで、c評価だった。留学生は来られているんだけど、1時間や2時間の留学生受入なんてあり得ないということで。

去年は確か、十分に達成はしていなかったということで、c評価でした。

【委員】

それでは、c評価ということでよろしいでしょうか。大学の自己評価と同じです。

～委員了承～

<項目番号 30「自己収入比率」について>

【委員】

大学の方では、実績値は、50.3%。目標は45.7%、前年の大学の平均は、47.6%ということで、上回っている。大学側はaということでしたけども、平成23年実績よりも、かなり上がっているので、sでも良いのではという意見もあります。

前年は、44.6%、それが50.3%になり、sでも良いのではと。

**【委員】**

大学側からの説明では、4 学年になったことによって生じたものなので、特に優れた顕著なものではないとなっています。

**【委員】**

他方、なぜそもそも目標値は 45.7%だったのでしょうか。もうすぐ中期計画期間が終わるような段階なのに、本当はもっと高くてもいいのに。目標値が全国平均よりも低くなっている。

**【委員】**

それはそれとして、3 学年から 4 学年になることで、自己収入が増えるということによろしいですか。

**【委員】**

確実に増えますね。

**【委員】**

それをどう評価するかですね。大学としては、a でいいでしょうとの評価。

**【委員】**

44.6%から増えたことについては、大学の説明のとおりだと思いますが、そもそも目標値がなぜ 45.7%になったのかと。

大学がこれで良いと言っているので、a で良いと思います。

**【委員】**

それでは、小項目の評価は以上でよろしいでしょうか。

～委員了承～

**【委員】**

続きまして、評価書の「全体評価」に記載する、「特筆すべき取組」と「課題・改善点、業務運営等に対する意見」について、ご意見を伺いたいと思います。

昨年度の記述部分を参考にしていただいて、今年度はこの記述部分をどのように変更していくか議論していただきたいと思います。なお、この部分につきましては、次回の委員会で最終的に確定することとなりますが、効率的な審議のため、例年どおり、本日この場で、あらかじめ委員の皆さまのご意見を伺い、記述内容の方向性をまとめていただいた上で、事務局で作成した掲載案について次回の第 2 回委員会までの間に書面による審議を終えておきたいと思います。最終決定は次回の委員会

で行うこととなります。

ここでは、まず「特筆すべき取組や顕著な成果が認められた事項」ということで、s の中でも特に高く評価されるものを抽出して記載しています。これだけ多くの s がある中で、その中からいくつかを選んで報告書に記載するということとなりますが、どの項目が良いでしょうか。

去年は、教育に関する事項が1つ、研究に関する事項が2つ、地域貢献に関する事項が2つということで、5件取り上げてあり、数としてはそれくらいかなとは思いますが、いかがでしょうか。

#### 【委員】

まずは教育についてですが、「志願倍率」は、目標を上回っているし、昨年の実績値も上回っているなので、候補として良いと思うのですが、いかがですか。

～委員了承～

#### 【委員】

続いて、「学生の授業内容等満足度」。これは昨年も特筆すべき取組として記載されましたが、これは重要な項目だと思います。

あと1つ、新しい項目として、「就職希望者の就職率」。97%で、s にはなりませんが、意見の中では a でもいいのではないのかというものもありました。よって、残るは「志願倍率」と「学生の授業内容等満足度」になりますが、それでよろしいでしょうか。

#### 【委員】

このような基準なので良いと思います。個人的には思うところもありますが。

～委員了承～

#### 【委員】

続いて、「研究に関する事項」。ぱっと見て、数字が上がっているのは、論文引用件数。828件→1,322件と、かなり大きく上がっている。たぶん、これは1つ残るんだと思います。

もう一ついかがですか。研究に関して、特筆すべきもの。こういうものが特筆すべき事項として書かれたならば、研究がうまくいっているということが分かる、というものを選ぶと。論文引用件数というのは論文数と、同じ論文という意味では、2つあげる必要はないかと。残るのは、学会報告数と受託・共同研究数。どちらの方が、記載されると評価が高いというか、研究している者としては、嬉しいというか、どちらですかね。学会報告数ですかね。それでは、今回は、「学会報告数」と「論文引用件数」を特筆すべき事項にしたいと思います。

～委員了承～

**【委員】**

最後、「地域貢献に関する事項」ですが、「公開講座の開催」、「公開講座の聴講者数」、「公開講座の教員参画者数」が s 評価で、かつ昨年の実績を上回っています。3つ全て公開講座に関するものなので、「地域貢献に関する事項」については、「公開講座の開催」を記載することでよろしいでしょうか。

～委員了承～

**【委員】**

続きまして、課題、改善点事項です。c ないしは d と評価されているものは、「卒業時の英語能力」と「留学生受入・派遣数（受入数）」ですので、その2つを課題、改善点とします。よろしいでしょうか。

～委員了承～

**【委員】**

それでは、今、ご審議いただきました「特筆すべき取組」と「課題・改善点、業務運営に対する意見」については、本日の議論を踏まえ、事務局で原案を作ってください、第2回委員会までの間で書面審議を行うということをお願いしたいと思います。

**【委員】**

続きまして、大項目別評価に関する概況欄についてですが、これらの記載内容につきましても、本日の議論を踏まえ、事務局で原案を作成の上、第2回委員会までの間で書面審議を行うということよろしいでしょうか。

～委員了承～

**【委員】**

その項目だけ決めておくだけでよろしいでしょうか。

**【事務局】**

概況欄は書面審議ということでご了解いただくということと、一点戻らせていただいて、課題・改善点の他に「意見」というところがありますので、そこについてもお願いします。

**【委員】**

「業務運営に対する意見」について、昨年度は「なお、これまでも指摘しているところであるが、法人の自己点検・自己評価については、記載された内容だけでは活動実績がわかりにくい記述が一部で見受けられる。県民等外部の人々が、その活動を理解できるよう、実施内容を具体的に記述するなど、よりわかりやすい記述を

心がけるようにされたい。」という意見を我々は書きました。今年ですが、ご提案なんです、第1期中期目標期間はH26に終わりますので、この意見の後に、例えば「また、目標達成に向けたこれまでの法人の取組状況や評価委員会における議論・評価結果等を踏まえ、より実態に即した事業計画や目標値となるよう、次期中期計画の策定にあたり配慮されたい。」といったような意見を述べるには、逆算していくと今回がラストチャンスですので、先ほどもありましたように、目標自体が要るのかという意見もありますので、「目標達成に向けて、より実態に即した事業計画や目標値となるよう、次期中期計画の策定にあたり配慮されたい。」というような文言を付け加えたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

～委員了承～

**【委員】**

以上で、本日の議題は終了しました。本日の審議を終了いたします。